

模範解答 更級日記―門出② (50点)

- 問1 ①どんなにか田舎びて見苦しかったであろうに、⑤ますます(物語に)心ひかれる気持ちが募るのだけれども、⑥ひどくもどかしいものだから、⑧人のいない時に何度もお参りしては、ぬかずいて礼拝した (各3―12点)

問2 等身に薬〳祈り申す (4点)

問3 ア・エ (各2―4点)

問4 光源氏 (2点)

問5 a 姉、継母などやうの人々 b 作者 (各2―4点)

問6 出立時のもの寂しくあたり一面に霧が立ちこめている様子。 (3点)

問7 a・c (各2―4点)

問8 a 謙讓(語) b 補助動詞 c 作者 d 薬師仏 (各2―8点)

問9 京に疾く上げ給ひて、物語の多く候ふなる、ある限り見せ給へ。 (3点)

問10 土佐日記 蜻蛉日記 和泉式部日記 紫式部日記 など (各2―6点)

現代語訳

東路の道の果て(である常陸国)よりも、もつと奥の方(にある上総国)で育った人(私)は、(今から思うと)どんなにか田舎びていただろうに、どうして(そんなことを)思い始めたのか、世の中に物語というものがあるそうだが、それをどうにかして見たいものだと思いついて、することもなく退屈な昼間や、夜遅くまで起きている時などに、姉や、継母などといった(大人の)人々が、その物語(はどうとか)、あの物語(はどうとか)、光源氏の生涯(はどうとか)などについて、とどころ話すのを聞いていると、ますます(物語に)心ひかれる気持ち募るのだけれども、私の思うとおり、どうして(姉や継母などが物語の一部始終を)そらんじて語ってくれようか(いや、語ってはくれない)。(それゆえ、私は)ひどくもどかしいものだから、自分の背丈と同じ大きさの薬師仏を造って(もらい)、手を洗い清めなどして、人のいない時にこっそりと(仏間に)入っては、「(私を)都に早く上らせてくださって、たくさんあると聞いております物語を、あるだけすべてお見せくださいませ。」と、身を投げ出して(一生懸命に)ぬかずいて、お祈り申し上げているうちに、(私が)十三歳になる年、(上総介だった父の任期が満ちて)都に上ろうというところで、九月三日に門出をして、いまたちという所に移った。

数年来遊びなじんできた家を、外から丸見えになるほど(御簾や几帳などの調度類を)あちらこちら壊して、(旅立ちの準備のために)大騒ぎをして、日の暮れ際で、たいそうもの寂しく霧が一面に立ちこめている頃に、車に乗ろうとして、(我が家の方に)ふと目をやると、人のいない時に何度もお参りしては、ぬかずいて礼拝した薬師仏が立っていらっしやる、それをお見捨て申し上げて去ることが悲しいので、人知れずつい泣けてきてしまった。